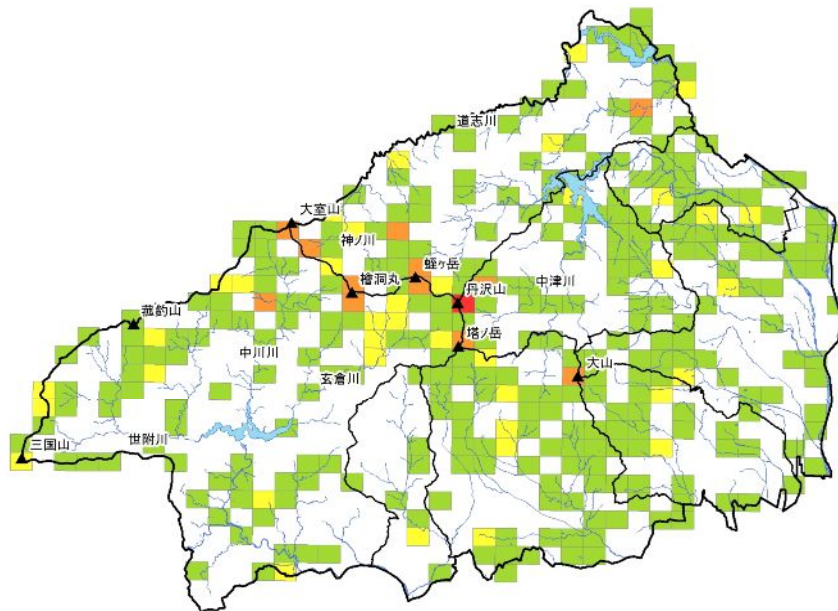


(7) 希少種の保護

① 維管束植物のホットスポット

神奈川県植物データベースから丹沢地域で確認された維管束植物をリストアップし、その確認地点の位置情報を用いて、希少種の分布状況を図示した。また、多くの分類群に関しては調査団メンバーに聞き取りを行い、ホットスポットと考えられる地域を図化してもらい、それをGISデータ化した。

なお、ここでいう希少種とは、改定作業中の神奈川県レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類※および絶滅危惧Ⅱ類※に判定された種が対象ですが、暫定的に神奈川県レッドデータブック（1995）の絶滅危惧種・減少種※・希少種を対象とした。



レッドデータブック掲載植物種数



図 77 希少植物のホットスポット（集中分布地）の現状  
※神奈川県植物データベースより作成

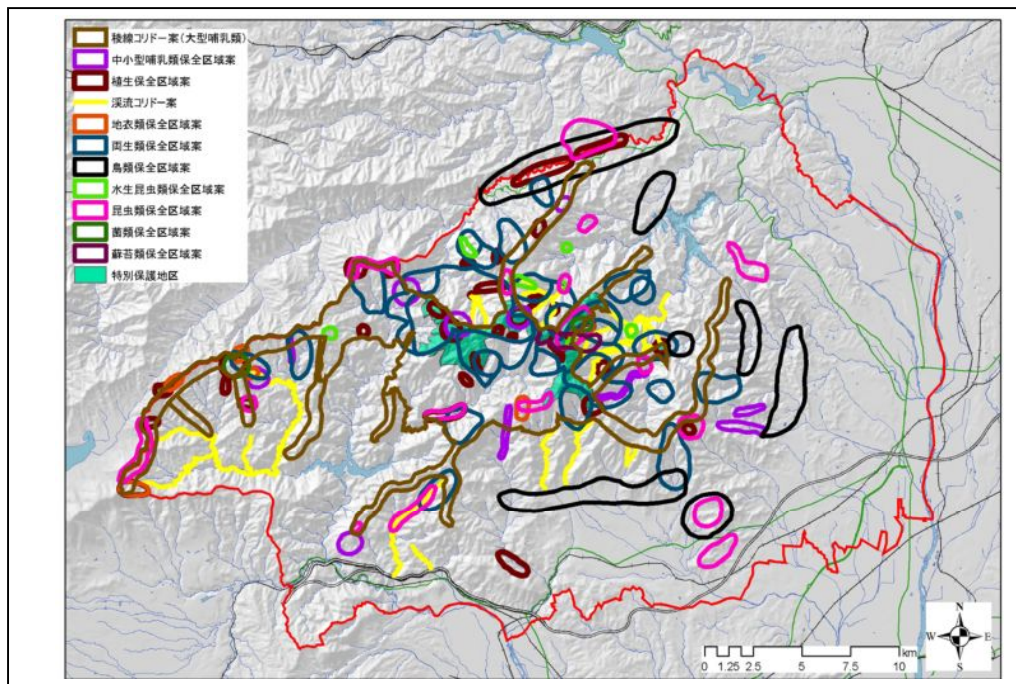


図 78 専門家が示した主要分類群の希少種ホットスポット

以上に示したように希少種の分布点や分布域を地図上に重ね合わせ、希少種の集中分布域（ホットスポット<sup>※</sup>）を抽出したところ、国立公園特別保護地区に最大のホットスポットが確認できた。

そのほかにも、特別保護地区周辺の第1種特別地域<sup>※</sup>、蛭ヶ岳～姫次～風巻尾根、大室山～白石峠、中川西沢、甲相国境尾根の菰釣山、高指山～三国山にかけての稜線部、人工林・二次林域である東丹沢札掛周辺、自然公園区域外の道志川溪谷や皆瀬川流域などにもホットスポットが認められた。

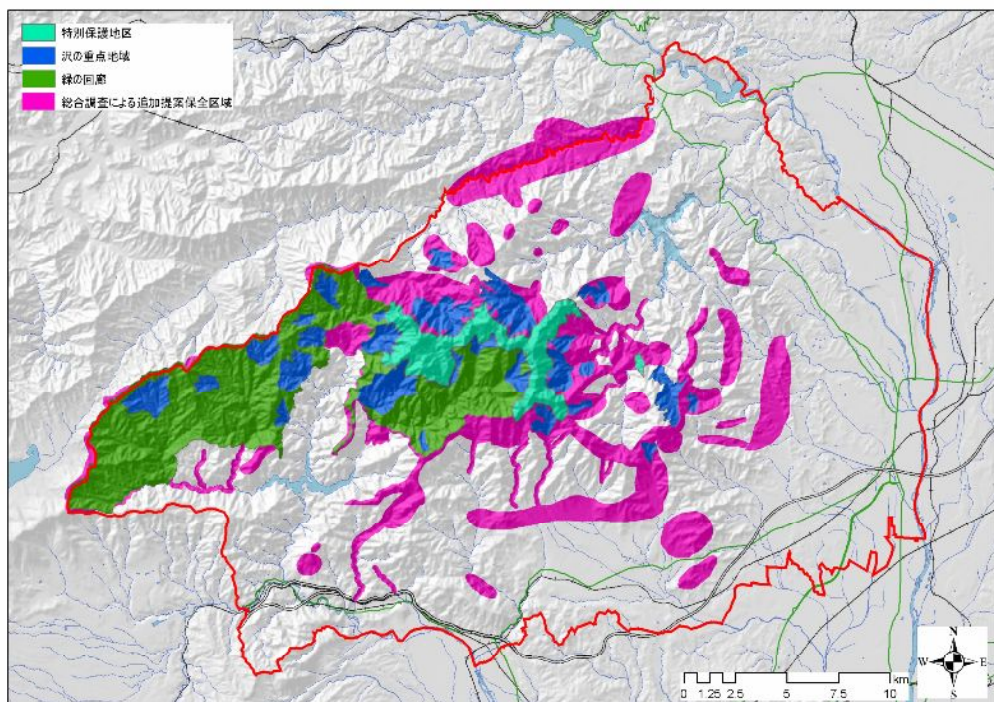


図 79 希少種保護のための望ましい保護地域



## ② 大型希少哺乳類の保護

### 1) 背景

丹沢山地は古くから人に利用されてきたにもかかわらず、今でも多くの野生動物が生息しています。しかし、ツキノワグマ、カモシカなどの大型哺乳類は、個体群の孤立や個体数の減少による絶滅の危険性が指摘されています。特にツキノワグマの場合は個体数が30頭前後と推測され、遺伝的にも多様性が失われた孤立個体群であるといわれています。

そこで、ツキノワグマの広域における空間利用パターンから生息地解析を行った。また、得られた結果から丹沢大山地域を含む神奈川、山梨、静岡県におけるツキノワグマの生息地とその連続性を評価した。

### 2) ツキノワグマの分布

環境省自然環境保全基礎調査における第2回（1978年）と第6回（2003年）のツキノワグマの広域分布図を示した（図80）。1978年と2003年共に確認されたメッシュは203個、第2回のみ確認されたメッシュは43個、第6回のみ確認されたメッシュは74個であった。丹沢大山地域においては分布の分断化が起きていると見受けられる。

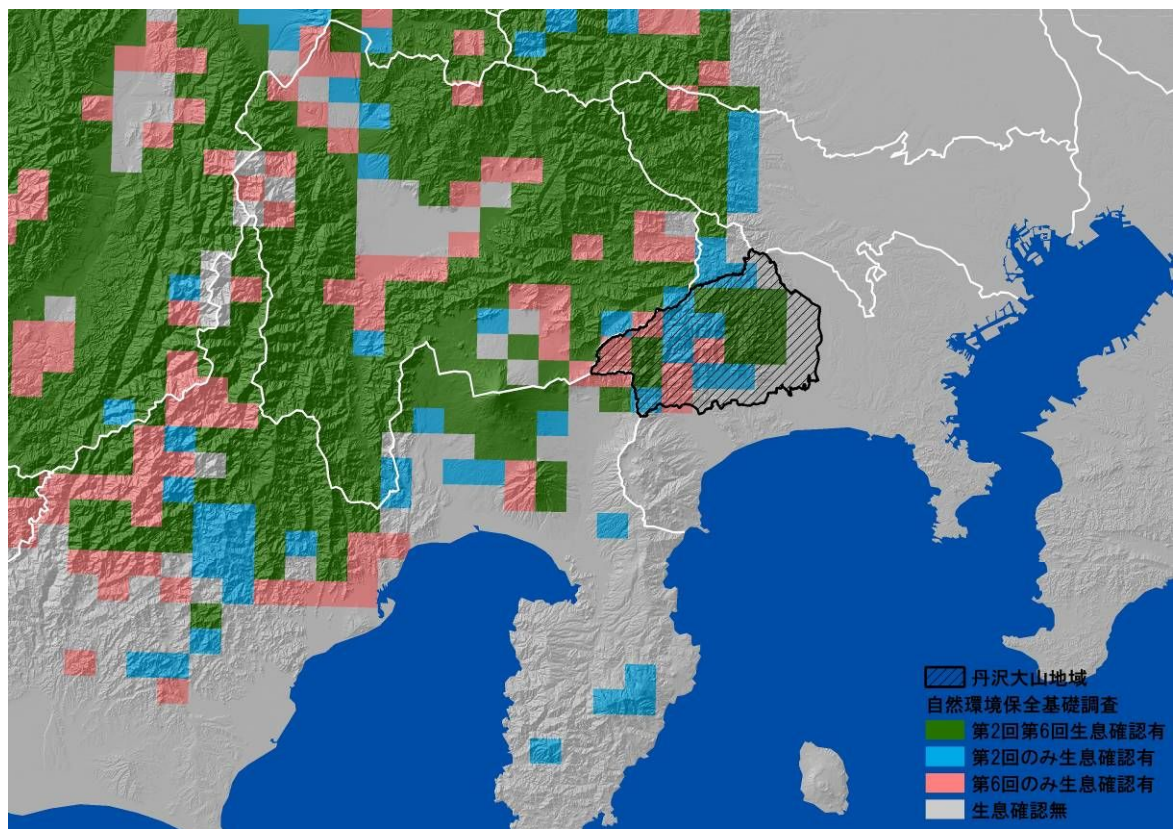


図80 自然環境保全調査におけるクマの広域分布

### 3) 目的

ツキノワグマの生息分布など空間利用パターンと環境要因、特に森林の分断化の関連を分析するため下記の解析を行った。

マクロスケールにおけるツキノワグマの分布と森林の分断化の関連

神奈川県、静岡県、山梨県における空間分布と環境要因（地形、土地利用、森林の分断化など）との関係を分析する。

### 4) 広域におけるツキノワグマの生息分布を制限している要因

神奈川県、静岡県、山梨県における空間分布と環境要因（地形、土地利用、森林の分断化など）との関係を分析した。

### 5) 解析対象地域

解析対象とした地域は、神奈川県と隣接しツキノワグマの生息確認されている山梨県、静岡県の3件とした（図 81）。

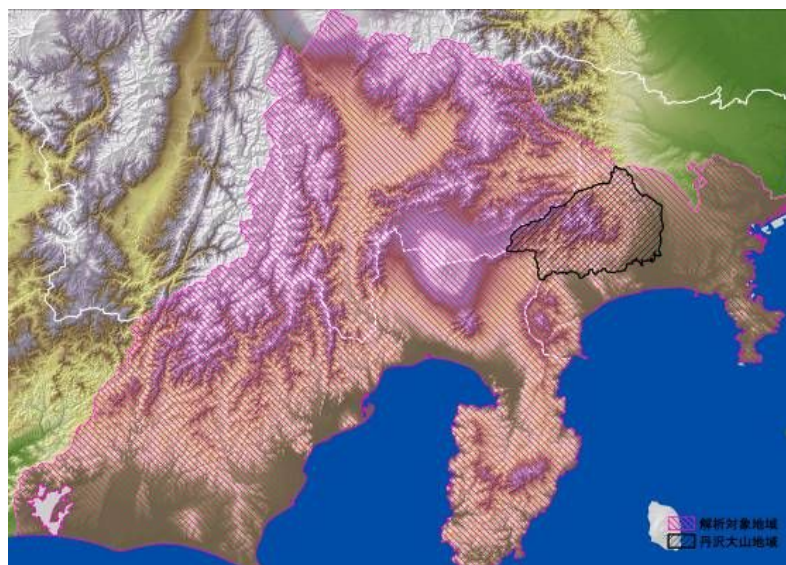


図 81 解析対象地域

### 6) 方法

環境省自然環境保全基礎調査の第6回（2003年）におけるツキノワグマの分布データが5kmメッシュでまとめられている。そのデータと環境要因との関係について、ハビタットモデルを作成することにより分析した。

広域におけるツキノワグマの生息分布を制限している要因として、地形、森林の分断化に関する13個のパラメータを選択した（表 33）。

表 33 使用したパラメータ

| 要因    | パラメータ       | パラメータ名   | 説明                      |
|-------|-------------|----------|-------------------------|
| 地形    | 平均標高        | ELEMEAN  | メッシュ内の平均標高              |
|       | 最大標高        | ELEMAX   | メッシュ内の最大標高              |
|       | 最小標高        | ELEMIN   | メッシュ内の最小標高              |
|       | 標高SD        | ELESD    | メッシュ内の標高の標準偏差           |
|       | 標高範囲        | ELERAN   | メッシュ内の標高の幅              |
|       | 平均傾斜        | SLOPE    | メッシュ内の平均傾斜              |
|       | 森林面積割合      | FORA     | メッシュ内の森林面積割合            |
| 森林分断化 | 周囲の森林割合     | FORA8    | メッシュの周囲8セルの森林面積割合       |
|       | 森林パッチの平均サイズ | FORSIZE  | メッシュ内の森林パッチ*の平均面積       |
|       | 森林パッチ周囲長    | FORPERI  | メッシュ内の森林パッチ*の平均周囲長      |
|       | 森林パッチ数      | FORNUM   | メッシュ内の森林パッチ*数           |
|       | ShapeIndex  | FORSI    | メッシュ内の森林パッチ*のShapeIndex |
|       | 道路密度        | ROAD     | メッシュ内の道路密度              |
|       | 主要道路密度      | MAINROAD | メッシュ内の主要道路(幅員5.5m以上)密度  |
|       | 市街地面積割合     | TOWN     | メッシュ内の市街地面積割合           |

\*森林パッチ:面積100ha以上の森林パッチを示す

データは、地形に関しては 50mDEM (数値地図 25000 空間データ基盤)、森林に関しては土地利用メッシュ (国土数値情報) を用いた。各要因はハビタットモデルのパラメータとし 5km メッシュごとに集計した。

選択した 13 個のパラメータは互いに強い相関がみられるので、主成分分析 (PCA) を行い、2つの因子に分解した (表 34)。PC1 は連続的な森林帯の指標と考えられ、PC2 は人為改変地の指標と考えられる。

表 34 PCA 分析結果

| パラメータ名   | PC1   | PC2  |
|----------|-------|------|
| ELEMEAN  | 0.93  |      |
| ELEMAX   | 0.95  |      |
| ELEMIN   | 0.75  |      |
| ELESD    | 0.96  |      |
| ELERAN   | 0.96  |      |
| SLOPE    | 0.93  |      |
| FORA     | 0.93  |      |
| FORA8    | 0.93  |      |
| FORSIZE  | 0.95  |      |
| FORPERI  | 0.89  |      |
| FORNUM   |       | 0.78 |
| FORSI    | 0.65  | 0.67 |
| FORCONE  | 0.85  |      |
| ROAD     | -0.68 | 0.40 |
| MAINROAD | -0.69 | 0.53 |
| TOWN     | -0.89 |      |

ハビタットモデルは、分布データを目的変量、2つの因子を説明変量として作成した。ハビタットモデルには GLM (一般線形モデル: logit link function, binomial error distribution) を用いた。作成手順は以下のとおりである。

- ① 単変量の GLM 作成 (一般線形モデル: logit link function, binomial error distribution)
- ② 単変量 GLM の結果から変量の選択 (G-test の P-value が 0.2 以下であった変量を選択)
- ③ 残った変量を用いて多変量 GLM モデルの作成 (変量の W-value もしくは P-value を用いて複数のモデル作成、モデルの選択: AIC)



以上のようにして作成・選択されたモデルを各時期における生息適地モデルとした。モデルの評価には、Sensitivity（生息適地の予測に成功した割合）、Specificity（生息不適地の予測に成功した割合）を用いた。

## 7) 結果

単変量の GLM において PC1 のみが有意な結果が得られた (PC1:P<0.0001、PC2:P=0.678)。そのため、PC1 の単変量 GLM の結果をマクロスケールにおけるツキノワグマの生息分布についての生息適地モデルとした。

PC1 と用いた生息適地モデルの結果から、PC1（連続性のある森林帯を示す指標）が大きくなるほど、ツキノワグマが生息する確率が高くなると示唆された（表 35）。マクロスケールにおけるツキノワグマの分布はまとまった森林帯があることが重要な要因であると考えられる。また、モデルの Sensitivity は 0.78 で、Specificity は 0.82 であったため、比較的精度の高いモデルであると考えられた。さらに生息適地モデルの結果から、神奈川県、山梨県、静岡県におけるツキノワグマの生息分布確率を算出し図化した（図 82）。

表 35 生息適地モデルの結果

| Parameter | Estimate | Std.   | Z-Value | P-Value  | Deviance |
|-----------|----------|--------|---------|----------|----------|
| Conctant  | -0.3881  | 0.1105 | -3.514  | 0.000442 |          |
| PC1       | 1.9704   | 0.1528 | 12.899  | <0.0001  | 307.51   |

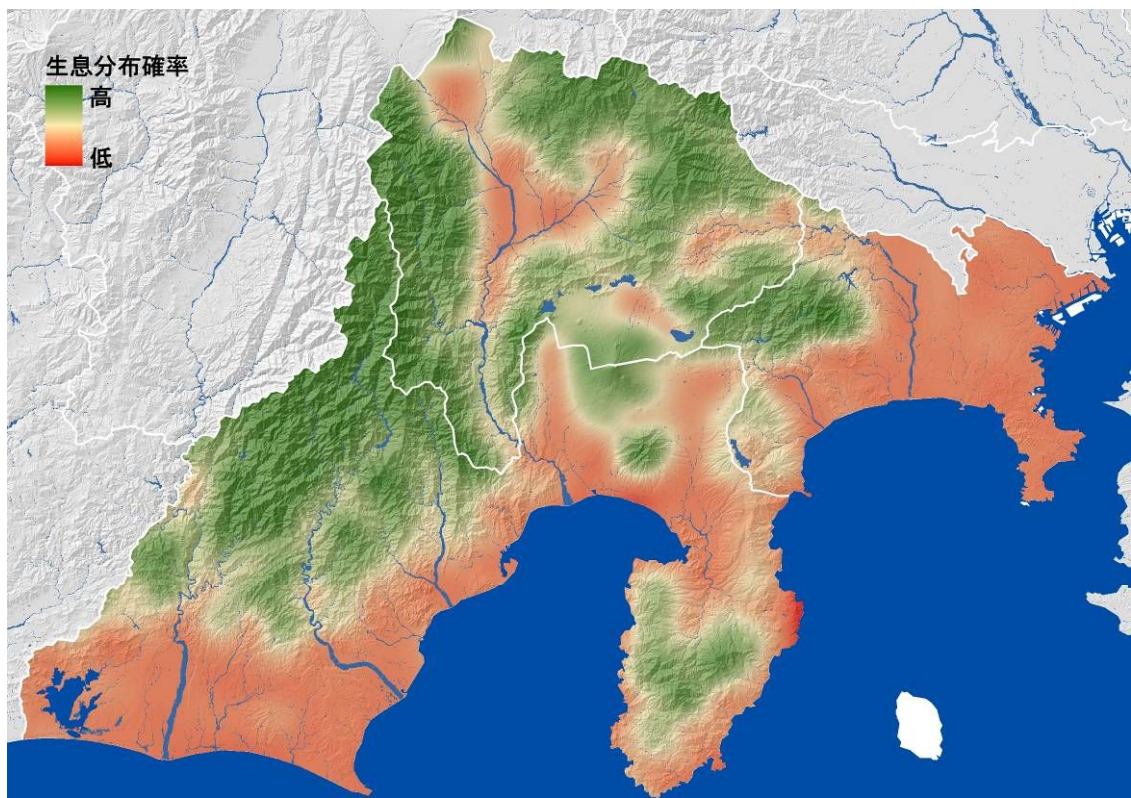


図 82 生息分布確率

得られた結果から、丹沢大山地域におけるツキノワグマの生息地は山梨県との連続性が限られており、孤立しやすい環境であると考えられた。

## (8) 外来種について

### ① 植物

総合調査において作成された県内の博物館等が所有している標本等の採集地を記載したデータベースが作成された。図 83 は同データベースを元に、丹沢・大山地域の外来種と考えられる種を抜き出し、分布図を作成したものである。外来種は平野部に比べ丹沢山地の高標高地にはまだそれほど多数の外来種が侵入していないことが示唆される。したがって、現時点での対策としては平野部に多数分布している外来種を丹沢の山地部に侵入させないことが重要といえる。

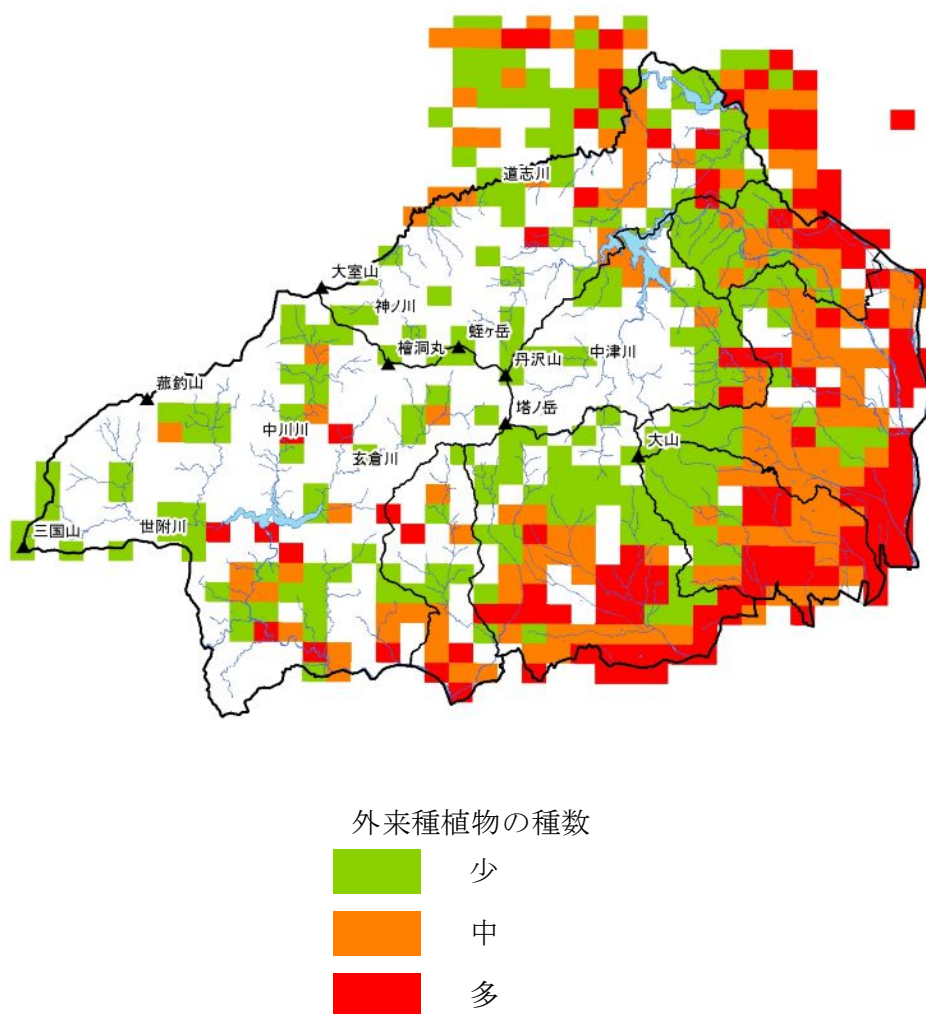


図 83 主な外来種植物の分布状況

※総合調査（生きもの再生調査）の結果に基づいて作成

ここで特に緑化工事に使用すると考えられる外来種の分布に着目すると、それらは特に河川沿いやダム周辺などに多く分布している（図 84～85）。このことは緑化工事由来で外来種の分布が拡大している可能性があることが示唆される。



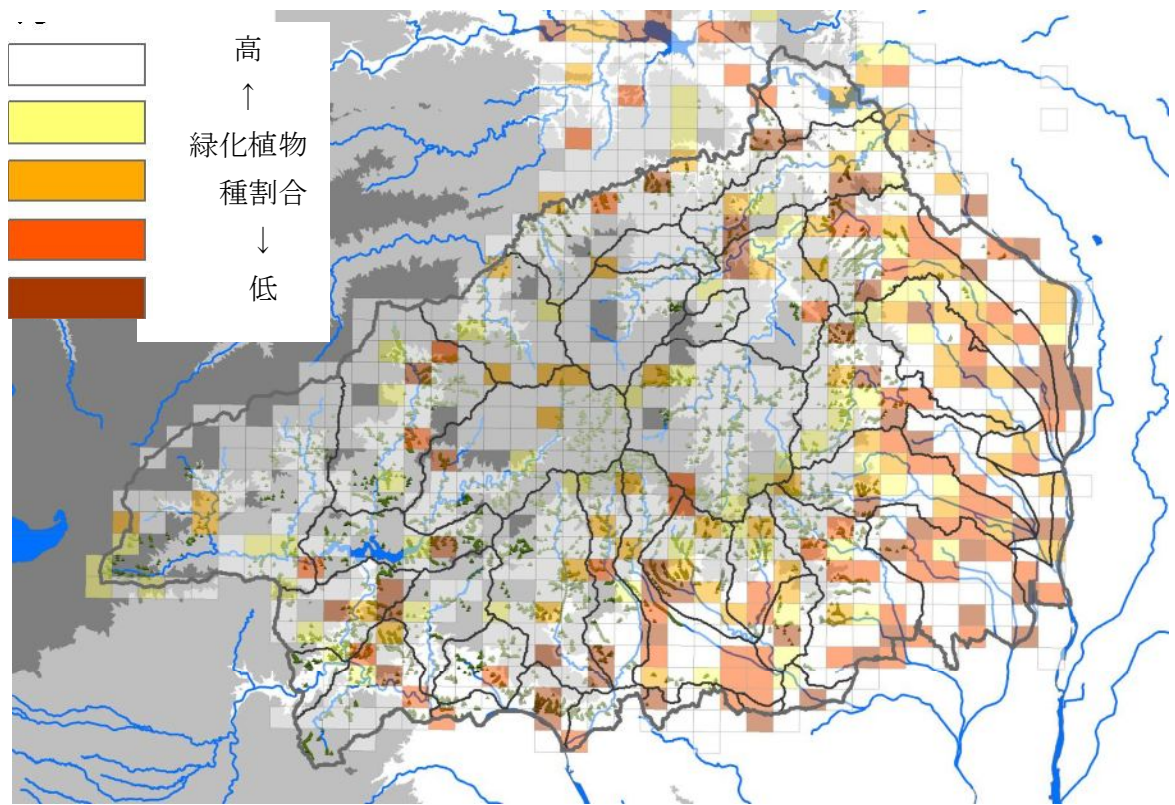


図 84 緑化に使用する外来種の分布

※総合調査（生きもの再生調査）の結果に基づいて作成  
 ※図はそれぞれのメッシュで出現する植物種に占める外来植物種の占める割合の高低を示す。

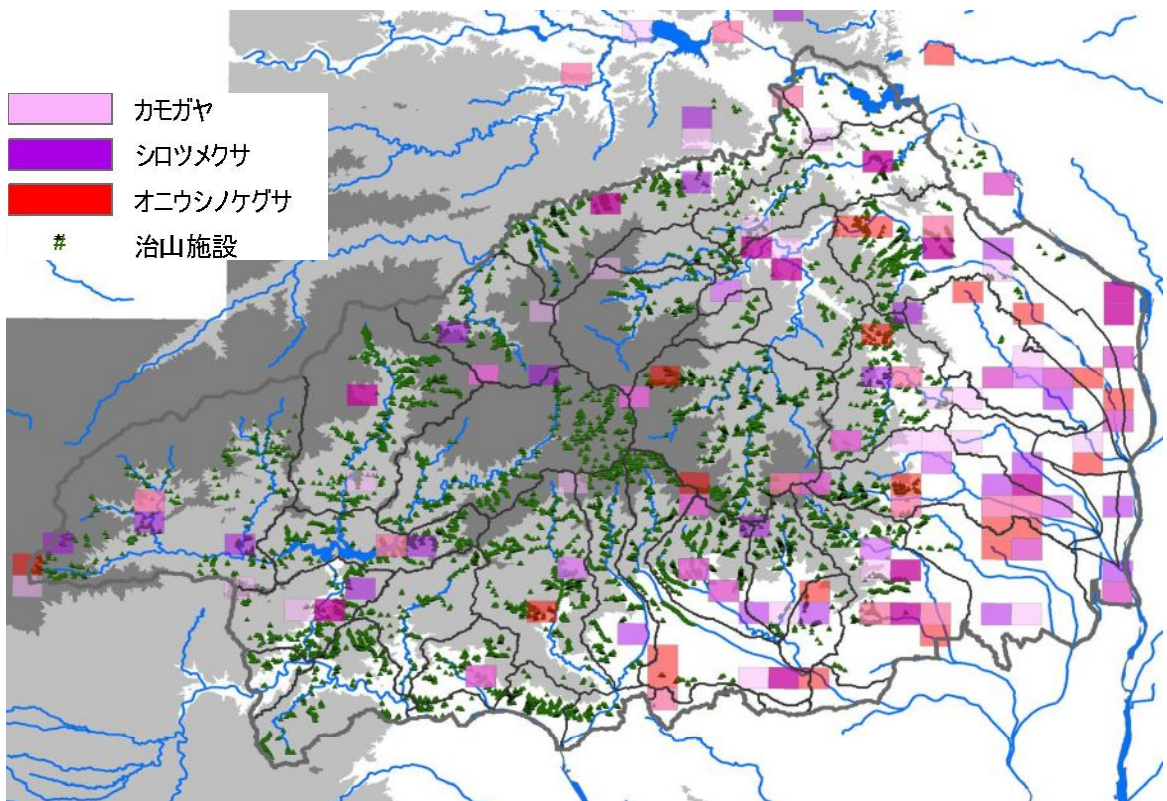


図 85 代表的緑化植物の分布

※総合調査（生きもの再生調査）の結果に基づいて作成

## ② アライグマ

アライグマについても近年、丹沢の周辺部に出現が記録されている。今後、何らかの手段が打たれない場合、丹沢の核心部へ侵入する可能性がある。



図 86 アライグマの分布

※総合調査（生きもの再生調査）の結果に基づいて作成



### ③ 鳥類

外来種の鳥類についてはソウシチョウ、ガビチョウ、カナダガンについて特にデータ化されている。ソウシチョウについては西丹沢のササ類が密生しているブナ林を中心に見つかった。一方、ガビチョウについては比較的低標高のスギ林・針広混交林・河原等の藪内に出現した。これらの種はよく茂った藪を好むとされる。そのため、今後のシカ管理や人工林管理により林床植生の量が増減すると分布に大きな変化が生じる可能性がある。

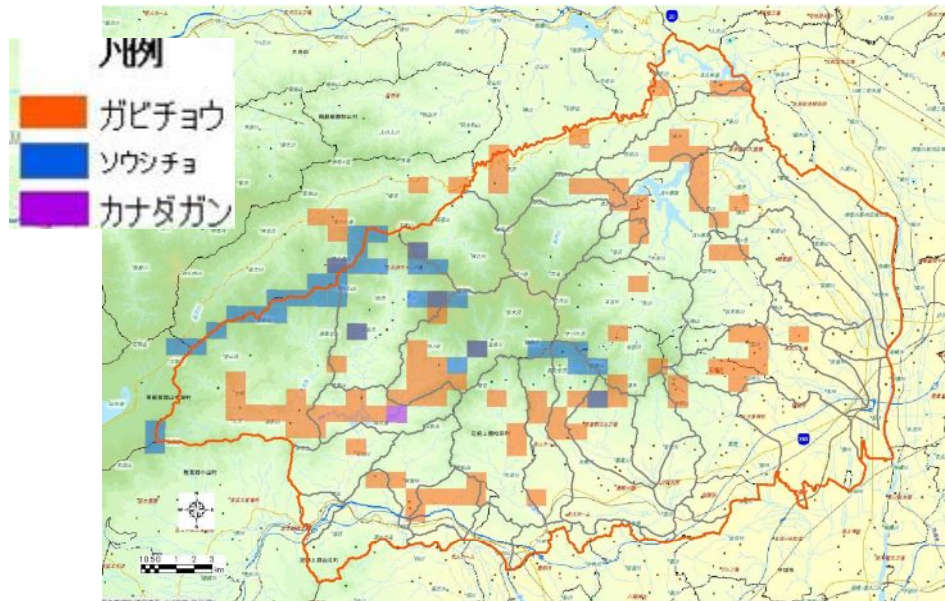


図 87 外来種鳥類の分布

※総合調査（生きもの再生調査）の結果に基づいて作成



## (9) 過剰利用

### ① 現状把握

過剰利用に関しては、登山ルート、登山道浸食状況に関する現地調査結果をGISデータ化し、現状を図化した。

加えて、登山道等施設の整備状況、登山道の利用状況評価、登山道周辺の環境等に関する情報を整理した。

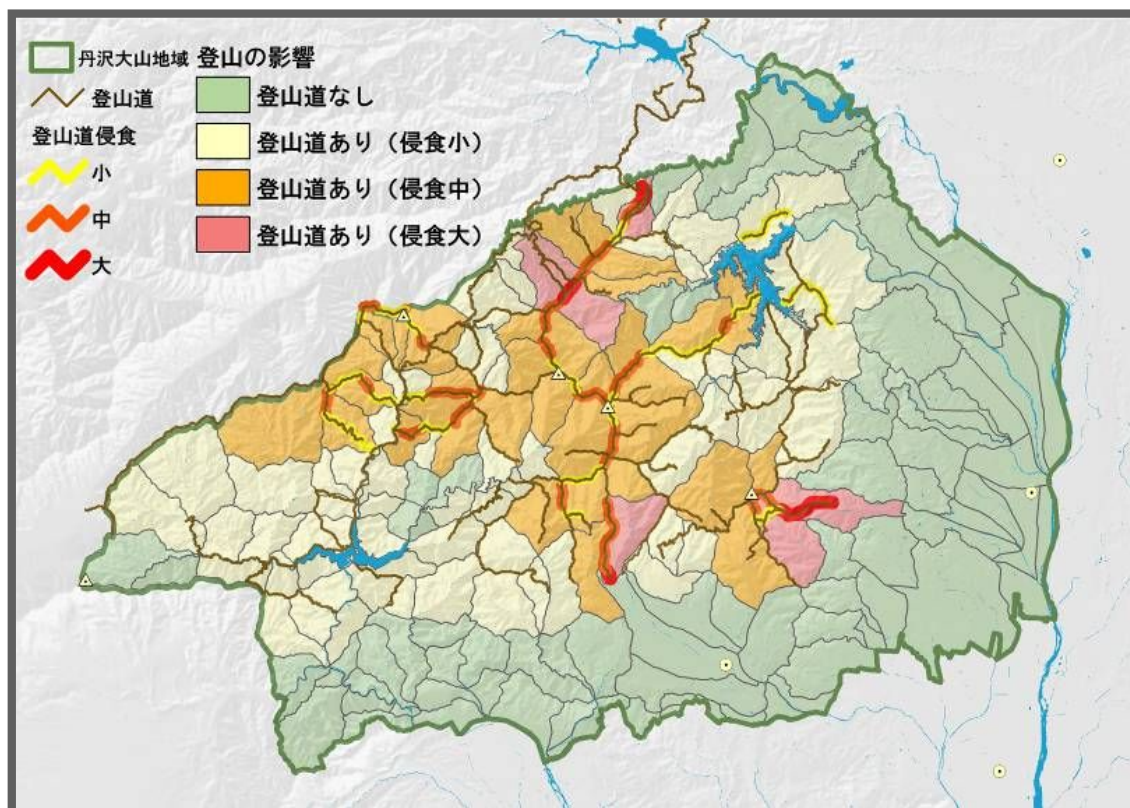


図 88 登山道荒廃の現状

※県資料および総合調査（地域再生調査）の結果に基づいて作成

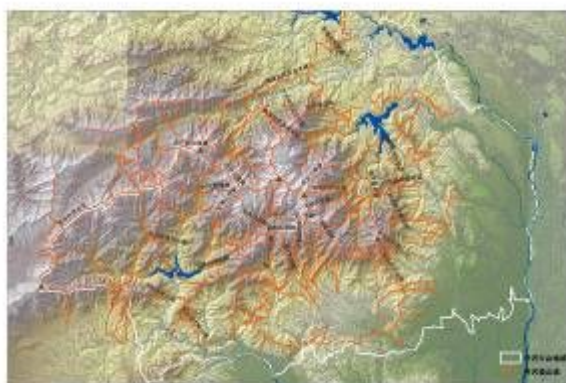


図 89 登山ルートマップ

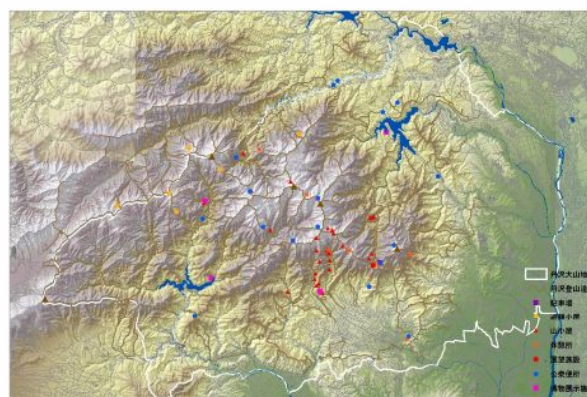


図 90 施設分布マップ

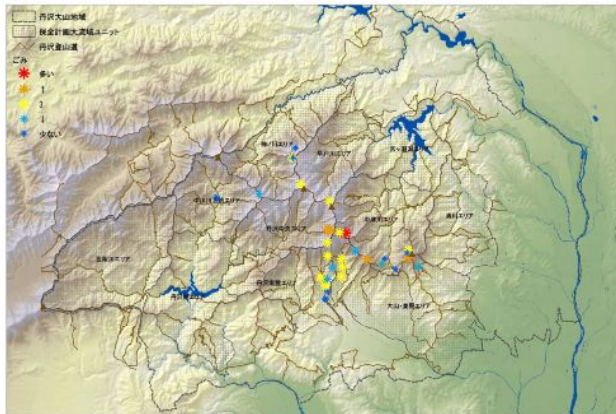


図 91 ゴミ分布位置図

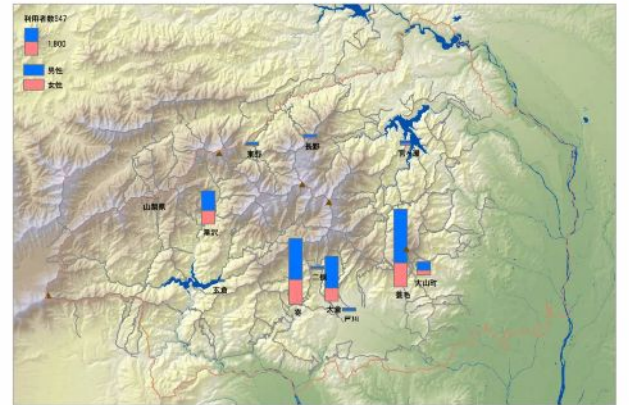


図 92 登山者利用状況(昭和 47 年)

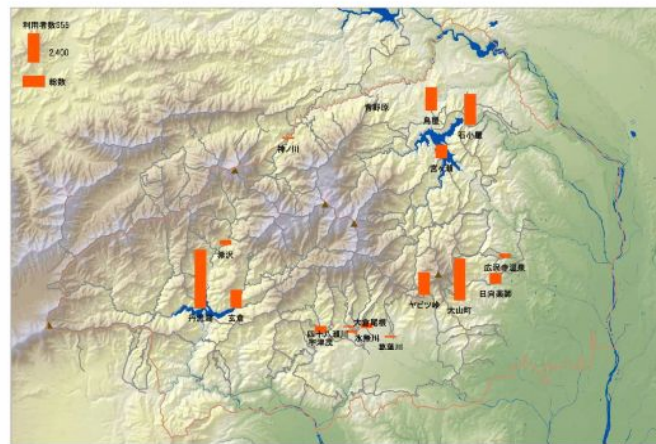


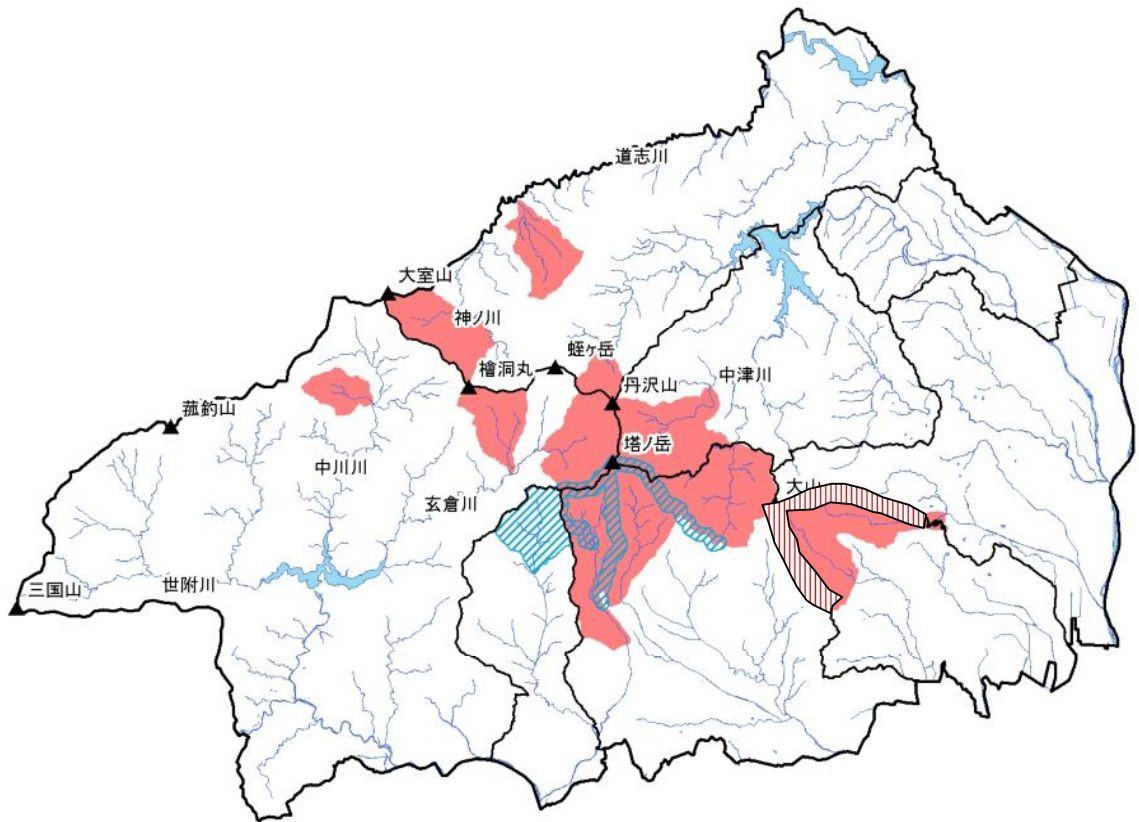
図 93 登山者利用状況 (平成 16 年)

## ② 対策マップの作成

自然公園の適正利用では、先に示した対策のうち、登山道等施設の整備事業の拡充に関して、登山道の利用状況評価、登山や施設の影響評価、登山道周辺の環境評価などを行い、小流域単位で解析して重点対策区域を抽出し、対策マップを試作した。

この結果、丹沢山から塔ノ岳にかけてと大倉尾根や表尾根などに加えて、大山の南東側の路線、北丹沢の一部路線などに登山施設整備対策重点区域を設定しました。これらの区域では、登山者数のモニタリングとカウンター設置による登山者数の把握、自然公園の多様な利用の実態調査、登山道路線カルテ作成と管理水準設定を優先的に進めて、計画的な整備を進めていく必要があると考えられた。





- 登山施設整備対策重点区域
- 現行の県民連携重点区域
- 県民連携重点の追加候補区域

図 94 自然公園の適正利用に関わる重点対策区域





## 6 調査団活動支援サブシステム整備

### (1) 概要

平成 17 年度は政策検討に寄与する特定課題の総合解析支援に照準を合わせて、各調査チームを横断する情報共有を目的とした。そのため情報共有システム「自然再生 B メール」の更新作業を行い、サブシステムの充実・強化を行なった。

### (2) 整備の目的と内容

平成 16 年度業務では調査初期段階における調査の円滑な推進および情報共有のシステムとして、調査団活動支援サブシステム「e-TanzawaSupport」を整備した。

また、NPO 法人 EnVision 環境保全事務所 (<http://www.env.gr.jp>) が運営している「自然再生 B メール」 (<http://saiseibbs.env.jp/>) というシステムをもちいて、調査チームごとに会議室を設け、チーム内での情報共有を支援していた。



図 95 e-Tanzawa Support の画面

### 「自然再生 B メール」とは

「自然再生 B メール」とは、全国の自然再生プロジェクトの情報交換を目的として、NPO 法人 EnVision 環境保全事務所 (<http://www.env.gr.jp>) が運営しているシステムである。主な機能としては以下が上げられる。

#### 電子会議室機能：

各自に与えられるアカウントを利用して、管理者によって登録された電子会議室にログインすると、掲示板に発言したり過去の発言を検索したりすることができる。

#### メールリングリスト機能：

掲示板での発言をメールで受信したり、送信（返信）したりするメールリングリスト機能があるこれにより、ホームページ上の掲示板とメールの両方で議論に参加できる。

#### 電子資料室：

各会議室には資料室としてデフォルトで 20MB までの大きさのファイルを保管し、メン



図 96 自然再生 B メール の画面

バーで共有することができる。

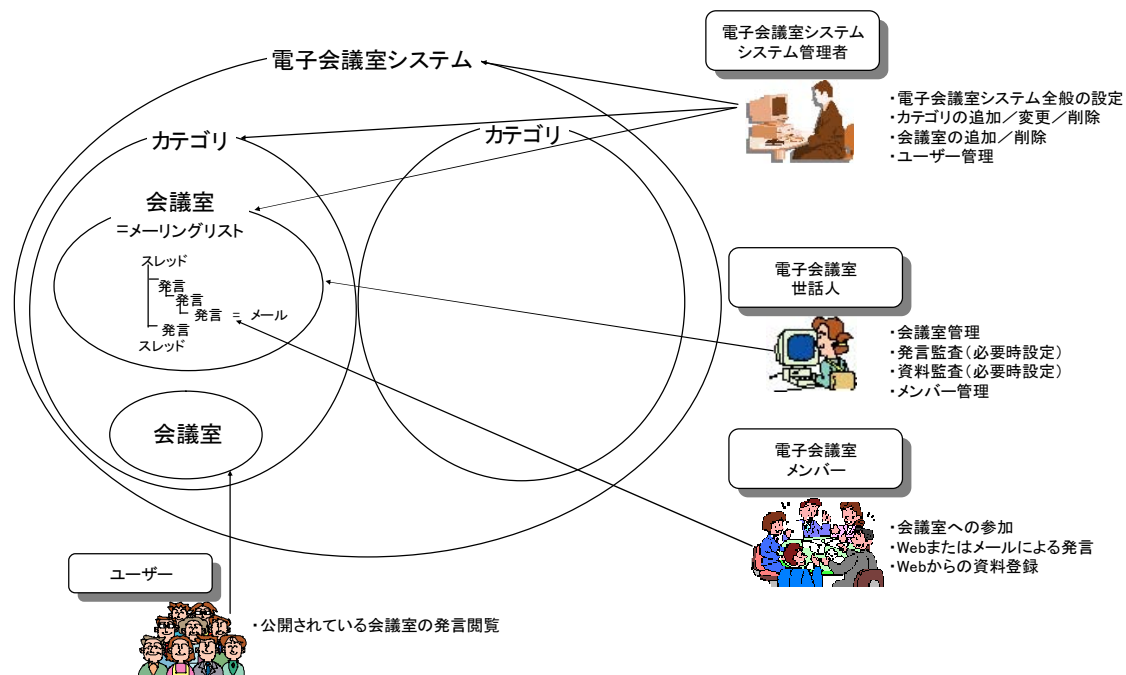


図 97 自然再生 B メールにおける電子会議室システムのイメージ

丹沢大山総合調査の政策検討では、平成 17 年度に特定課題として 4 つのチームを横断する形の右記の 8 つの特定課題を設け、それぞれの課題別にチームを横断する形で、その原因と現状把握、問題点と対策等の整理を行った。そのため、課題別にチーム横断的な情報交換・議論の必要性が生じた。

しかし、昨年度までのシステムでは、調査員は自分が所属しているチーム以外の情報を得ることはできず、各チームを横断し

表 36 8 つの特定課題

|                              |
|------------------------------|
| ①ブナ林の保全・再生                   |
| ②人工林の再生                      |
| ③自然資源・地域資源を活かした地域の自立とつながりの再生 |
| ④溪流生態系の保全・再生                 |
| ⑤シカの保護管理                     |
| ⑥希少動植物の保全・回復                 |
| ⑦外来種の除去                      |
| ⑧自然公園の適正利用                   |

た特定課題に向けた議論が行なえる環境ではなかった。

そこで本年度は新たに特定課題ごとに会議室を設け、各チームの政策検討担当者ならびにグループリーダーレベルの意見集約者、事務局を会議室のメンバーとし各チームを横断した情報共有および意見交換を行なった。



図 98 自然再生 B メール上の総合調査関連会議室の一覧



### (3) 整備結果

「自然再生Bメール」の丹沢大山カテゴリーの稼働状況は表1のとおりである。

特定課題別会議室は運営期間が短いため、チーム別会議室に比べると発言数が少なかったが、ブナや溪流の会議室においては短期間の内に活発な議論が行なわれていた。また、「丹沢大山自然再生基本構想」素案の作成の際には、原稿に修正を加えるたびに資料室に登録することで、関係者にリアルタイムの情報共有を行なうことができたと考えられる。

表 37 各会議室の稼働状況

| 会議室名                   | 参加者の範囲    | 閲覧許可の範囲 | 参加者数 | 発言数 |
|------------------------|-----------|---------|------|-----|
| 丹沢大山総合調査全体会議室          | 全調査員      | 無制限     | 249  | 201 |
| 丹沢大山総合調査生きもの再生調査チーム会議室 | チームメンバー   | 参加者のみ   | 120  | 60  |
| 丹沢大山総合調査水と土再生調査チーム会議室  | チームメンバー   | 参加者のみ   | 25   | 26  |
| 丹沢大山総合調査地域再生調査チーム会議室   | チームメンバー   | 参加者のみ   | 78   | 238 |
| 丹沢大山総合調査情報整備調査チーム会議室   | チームメンバー   | 参加者のみ   | 39   | 202 |
| 丹沢大山総合調査政策検討WG会議室      | WGメンバー    | 参加者のみ   | 21   | 221 |
| 特定課題ブナ会議室              | 各チーム政策担当者 | 参加者のみ   | 30   | 28  |
| 特定課題人工林会議室             | 各チーム政策担当者 | 参加者のみ   | 25   | 1   |
| 特定課題溪流会議室              | 各チーム政策担当者 | 参加者のみ   | 28   | 17  |
| 特定課題シカ会議室              | 各チーム政策担当者 | 参加者のみ   | 22   | 1   |
| 特定課題希少種・外来種会議室         | 各チーム政策担当者 | 参加者のみ   | 24   | 0   |
| 丹沢大山総合調査調査企画部会会議室      | 部会委員      | 参加者のみ   | 27   | 9   |
| 丹沢大山総合調査実行委員会厚木事務局会議室  | 事務局員      | 参加者のみ   | 39   | 96  |

### (4) 課題

現在のところ、特定課題会議室は「丹沢大山自然再生基本構想」の原稿に関する意見交換の場としての性格が強い。今後、本格的な総合解析を行なうにあたっては、解析手法等の意見交換を行なう場としての役割も担うことが期待される。そのためには参加者への利用啓蒙や参加者の追加を行なうなどの何らかの利用対策が必要になると思われる。



## 7 協働型自然再生支援ウェブサイト（丹沢オンラインレポート）の整備

### （1）概要

丹沢大山総合調査について県民に興味を持ってもらい、県民の意見を政策形成に効率的に反映させるため、調査全体のしくみと流れを視覚的に現在進行形で示し、基本構想素案等への意見募集や反映結果の提示を支援する機能を備えた県民向けウェブサイトの設計、構築及び運営サポートを行った。

### （2）基本設計

#### ① ウェブサイト制作の目的

丹沢大山総合調査については、丹沢大山総合調査実行委員会が運営管理する「丹沢大山のいまを調べる 丹沢大山総合調査」や情報整備チームが運営管理する「丹沢自然環境情報ステーション e-Tanzawa」など県民に伝えるサイトはあるが、ある一定の調査内容に特化しており、「県民の目線」に立って「丹沢大山総合調査の現状」をわかりやすく見渡せるサイトは作成されていない。そのため、県民に丹沢大山総合調査を「現在進行形で」「わかりやすく」伝えるためウェブサイト（丹沢レポート Online）を作成した。

丹沢レポート Online では、既存する一定の内容に特化したいくつかのサイトの特徴を生かし、それらをまとめると同時に、総合調査の成果や基本構想などでの検討成果に関する情報を付加して、丹沢大山の自然再生を県民と協働してすすめていくための情報や認識の共通化や、合意形成に役立つ、わかりやすいサイトを作成することを目的とした。

#### ② 丹沢レポート Online の特徴

丹沢レポート Online は、現在の状況をいち早く情報発信することができ、視覚的にもわかりやすく多くの県民が丹沢大山総合調査の現状を簡単に認識できるウェブサイトとした。

トップページにおいては、動的コンテンツを利用し、「丹沢大山総合調査のしくみとながれ」を視覚的にわかりやすく表現した（図 99）。



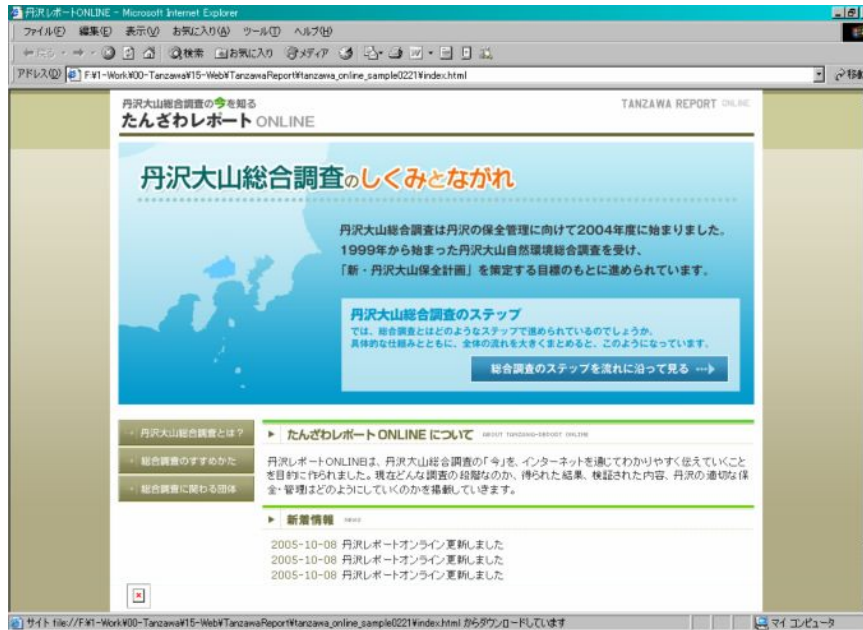


図 99 丹沢レポート Online のトップページ

また、丹沢大山総合調査を段階ごとに分け、「今何をしているのか?」、「何がわかってきたのか?」という調査の流れを現在進行形でわかりやすく伝えることとした。そのため、丹沢大山総合調査の流れを視覚的に示し現在の段階を表示した (図 100)。

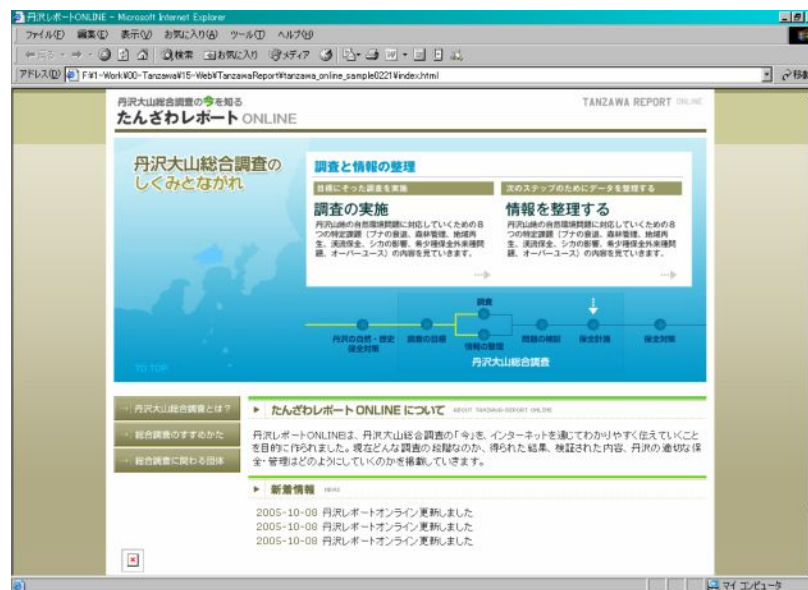


図 100 調査の流れを示したページ

丹沢レポート Online はインターネットのウェブサイトならではの表現方法で、伝えたい内容が誰にでもわかるようなウェブサイトとして作成した。つまり、丹沢大山総合調査の各分野、また各段階の内容に特化した個々のサイトをまとめる、総合的な存在としての役割を持つことから、このサイトにアクセスすれば、丹沢大山総合調査の全てが集約され、全体の取り組みがわかるように作成した。

### ③ トップページの動的コンテンツ作成の意義

図 100 で示したように、トップページでは、丹沢大山総合調査についてだれにでもわか

りやすいサイトを作成することで、問題や対策などに関する共通理解が得やすいように工夫した。すなわち、流れるようなアニメーション制作により、文章の読解力を多くは必要とせず、丹沢大山総合調査が行われることになった経緯、またその流れが「イメージ」として把握できるようにした。

ここでは、単なるアニメーションや動画など一方的なコンテンツとは違い、インタラクティブな機能によりユーザーは自ら知りたい内容を選択し、総合調査の段階ごとにその詳細を知ることができる。トップページの動的コンテンツでは、総合調査の全体像を把握することにより、ユーザーはサイトの全体構成（サイトマップ）もイメージできるように工夫した。

### (3) 構築結果

#### ① ページ構成と流れ

トップページの動的コンテンツを軸として、各段階の説明を示すページとリンクした。また、詳細ページは各段階のページにぶら下がる形となり、ツリー的な構造とした(図 101)。

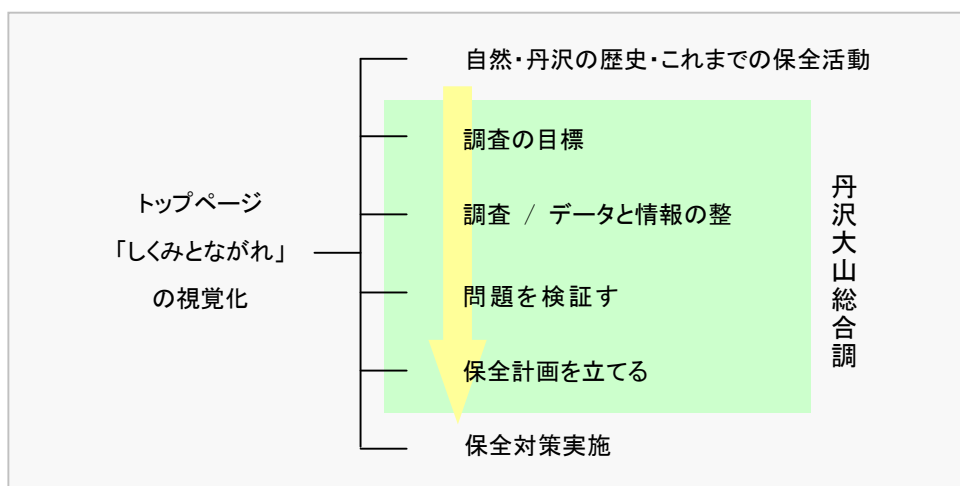


図 101 サイトマップ

各段階については以下のような内容を作成した。

#### 1) 自然・丹沢の歴史・これまでの保全対策

丹沢大山地域の自然や歴史、現行の丹沢大山保全計画、これまで行われていた保全対策についてのサイトを作成した(図 102)。詳細ページは次のような内容である。

- ・丹沢大山地域の自然環境・歴史

アトラス丹沢 WEB とリンクし、丹沢大山について自然の現状や歴史のページを作成した。

- ・丹沢大山保全計画

丹沢大山国立公園、県立自然公園とその周辺を対象に 1999 年～2006 年度に行われている保全計画についてのサイトを作成した。

- ・保全対策事業の現在

現状の保全計画における施策の体系と事業実績の概要、既存事業の効果に関する評価手法について記述するサイトを作成した。



図 102 丹沢の自然、歴史、これまでの保全対策のページ

## 2) 調査の目標

これまでにかけていた課題と丹沢大山総合調査の目標、8 個の特定課題について記したページを作成した (図 103)。

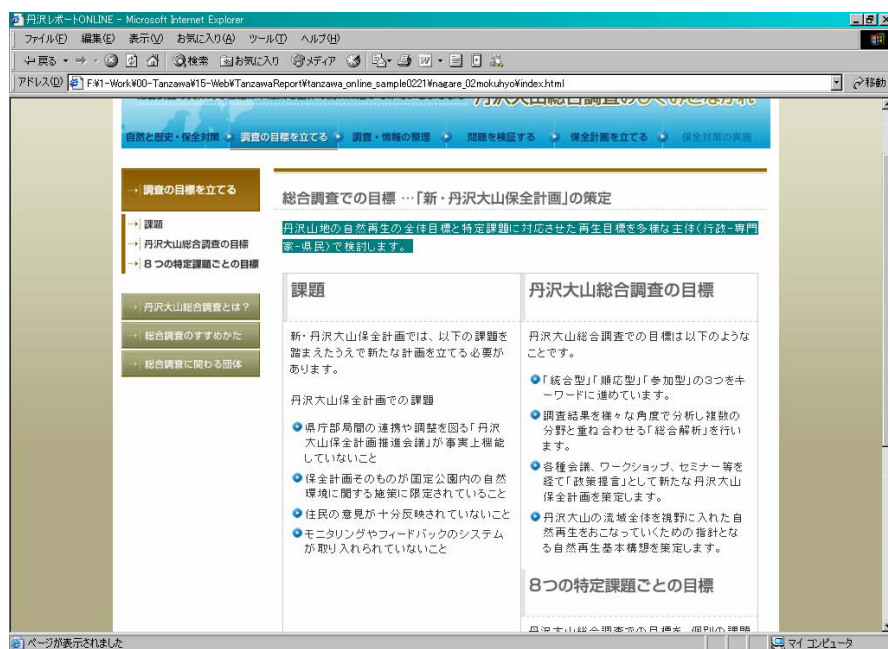


図 103 総合調査の目標のページ

## 3) 調査 / データと情報の整備

丹沢大山総合調査における調査体系やその内容、また得られた情報の整備に関するページを作成した (図 104)。





図 104 調査・データの整備のページ

#### 4) 問題を検証する

丹沢の自然再生において、優先順位をつけて政策や事業を検討するには、総合調査で収集したさまざまな調査結果を分析し、具体的な政策や事業へと橋渡しする総合解析についてのページを作成した（図 105）。詳細ページでは、“1. 特定課題ごとにひとつずつ検証する”“2. その内容を総合的広範囲で見るとどうなるか？”の 2 段階のページを作成した。



図 105 総合解析のページ

#### 5) 保全計画を立てる

解析結果に基づいた基本構造（政策提言）の検討結果や成果についてのページを作成した（図 106）。丹沢大山総合調査における調査や総合解析の結果から検討した基本構想の成果やパブリックコメントの募集（メールにて収集）を行えるページを作成した。



図 106 基本構想のページ

## 6) 保全対策実施

今後の実施させる保全対策の内容を示したページを作成する。

今年度は、総合調査において現在進められている「4. 問題を検証する」もしくは「5. 保全計画を立てる」までのコンテンツを作成した。

## ② 意見公募サイトの立ち上げ

丹沢大山総合調査における調査や総合解析の結果から検討した基本構想の成果に関するパブリックコメントの募集（メールにて収集）を行えるページを作成した（図 107）。パブリックコメントのページは丹沢レポート Online の「5. 保全計画を立てる」のページにリンクを張ると共に、e-Tanzawa のページにもリンクを作成した（図 108）。



図 107 パブリックコメントのページ



図 108 e-Tanzawa のページ

パブリックコメントのページでは、基本構想の策定のスケジュールや現在検討中である基本構想の PDF ファイルをリンクした。また、基本構想のついてのご意見などを収集するために、メールによる収集システムを作成した (図 109)。

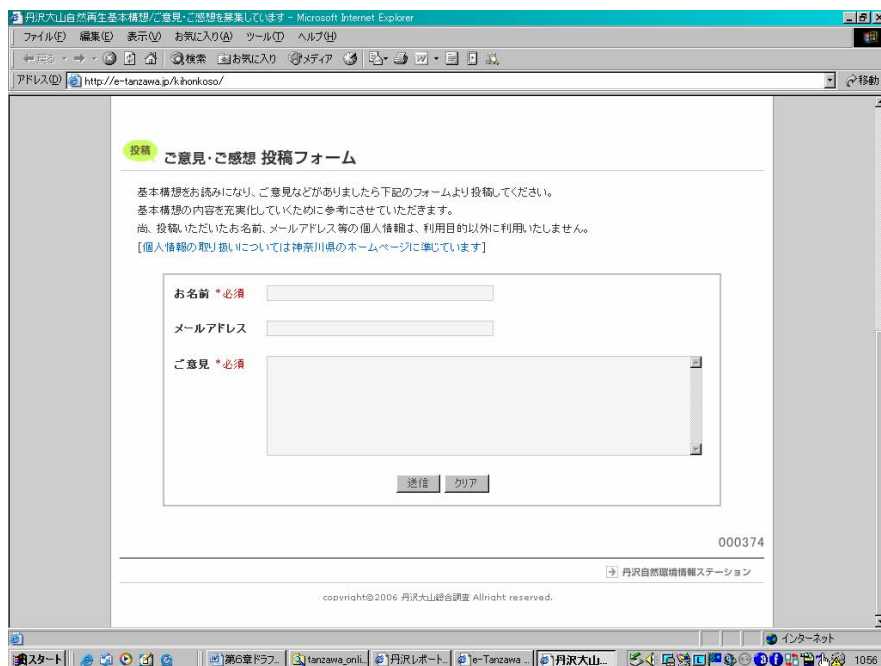


図 109 パブリックコメントの意見収集ページ

このように作成したパブリックコメントのページより、現在までに 4、5 件の意見が収集されている。

